

前置詞句の使用について¹

—文法機能の観点から—

広島大学大学院 赤松 猛

0. はじめに

本小論は、日本人英語学習者が前置詞句を使用する際に、どのような困難点があるのかを、前置詞句の文法機能という観点から考察することを目的としており、日本人英語学習者に対して実施した前置詞句に関する2つの調査結果を報告する。

1. 文法機能の分類基準

前置詞句を文法機能によって分類するために、その分類基準として3つの概念を導入する。それらは、意味選択・動詞依存・範疇選択であるが、順に例を示しながら説明していく。まず、意味選択について述べる。意味選択 (s-selection) とは、文を成立させるために不可欠な意味役割を、動詞が選択決定することである (Chomsky, 1986)。例えば、put という動詞は、〈AGENT, THEME, LOCATION〉という3種類の意味役割を担った項を要求するという情報をもっている。つまり、「誰が・何を・どこに」置くのかを述べる必要があり、それは動詞 put によって選択決定されているということになる。この意味選択によって、(1), (2)の文法性の違いが説明される。

(1) He put the book on the table.

〈AGENT〉 〈THEME〉 〈LOCATION〉

(2) * He put the book.

次に、動詞依存について、例文 (1), (3), (4)を比較しながら説明する。

(3) She kissed her mother on the cheek.

(4) She kissed her mother on the platform.

例文 (1)の前置詞句 (on the table) は、動詞に意味選択されている点で、(3), (4)の前置詞句 (動詞 kiss に意味選択されているわけではない)と統語的な振舞い (文法機能) が異なる。そして、(3), (4)の前置詞句は意味選択されていないという点では互いに類似しているが、前置詞句が動詞に依存しているかどうかで両者の文法機能が識別される。

(3') ? On the cheek, she kissed her mother.

(4') On the platform, she kissed her mother. (Quirk et al, 1985: 512)

(3'), (4')は、(3), (4)の前置詞句がそれぞれ文頭に移動されたものであるが、この移動によって容認度に差が生じる。そして、この容認度の違いは、前置詞句が動詞に依存しているかどうか起因する。つまり、(3)の前置詞句は動詞に依存しているため、動詞句の外へ移動されると容認度が低くなるのに対して、(4)の前置詞句は動詞に依存しておらず、文全体を修飾しているので、動詞句の外へ移動されても容認度は変わらない。本小論では、前者（動詞に依存しているが意味選択されていない前置詞句）を「随意的付加部 (optional adjunct)」と呼び、後者（動詞に依存しておらず、意味選択もされていない前置詞句）を「文付加部 (sentence adjunct)」と呼ぶことにする²。

最後に、範疇選択について、例文 (1), (5), (6)を比較しながら説明する。

- (1) He put the book on the table.
- (5) The government supplied the homeless with blankets.
- (6) John looked at the picture.

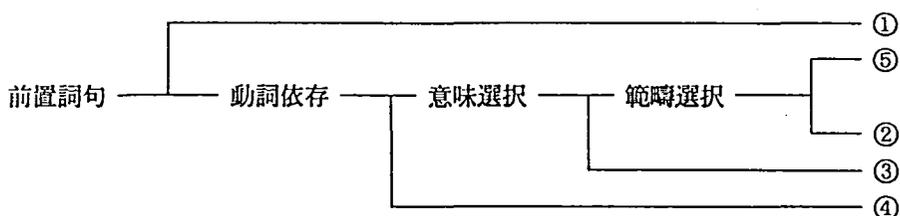
例文 (5)の前置詞句 (with blankets)は、動詞 supply によって意味選択されている点においては、(1)の前置詞句と類似しているが、動詞 supply によって、前置詞 with が決定されている点では、(1)の前置詞句と異なる。このように、動詞が後続する構成素の形式（ここでは、特定の前置詞）を決定することを、範疇選択 (c-selection)と呼ぶ (Chomsky, 1986)。本小論では、(5)の前置詞句のように、意味選択されている前置詞句の中で、特定の前置詞が動詞によって決定されている（範疇選択されている）ものを「前置詞句補部 (PP-complement)」と呼ぶことにする。また、自動詞の補部である (6)の前置詞句も同様の性質をもつと考えられるので、同じように前置詞句補部と呼ぶことにする。そして、(1)のような前置詞句（意味選択されているが、範疇選択されていない前置詞句）を「義務的付加部 (obligatory adjunct)」と呼ぶことにする。なお、他動詞の補部は前置詞句ではないが、分類の便宜上、「名詞句補部 (NP-complement)」として分類のひとつに加える³。

2. 前置詞句の分類

意味選択・動詞依存・範疇選択という3つの概念に基づいて、5つの文法機能（文付加部・随意的付加部・義務的付加部・前置詞句補部・名詞句補部）を提示してきたが、ここでは、それぞれの文法機能がどのように関連しているかを示す。

3つの概念の間には、「範疇選択されているものは、すべて意味選択されている。また、意味選択されているものは、すべて動詞に依存している。」という関係が成り立っている。従って、5つの文法機能の関係は、以下の図1のように表わされる。なお、本小論で報告する調査は、この図1に基づいて行なわれたものであり、結果の分析も図1に基づいている。意味選択・動詞依存・範疇選択を前置詞句にかかる統語的（言語学的に設定された）制約と考え、それらの統語的制約が実際の前置詞句使用にどれだけ影響を及ぼすか（どれだけ制約となっているのか）を知ることが、分析の主な目的である。（以下の考察において、前置詞句の分類番号①～⑤を使用することがある。）

図1 前置詞句の分類



- ①：文付加部 (sentence adjunct) ②：前置詞句補部 (PP-complement)
 ③：義務的付加部 (obligatory adjunct) ④：随意的付加部 (optional adjunct)
 ⑤：名詞句補部 (NP-complement)

<例>

Mary blamed John for the divorce on the platform.

⑤ ② ①

He looked up from his book.

④

Her sister puts a lot of sugar in coffee.

⑤ ③

3. 調査

3.1. 調査 I

3.1.1. 調査の概略

<調査時期> 1992年 9月上旬

<被験者> 広島県立S高校1年生 39名 (以下、H1)
 広島県立S高校3年生 43名 (以下、H3)
 国立大学1年生(英語専攻) 14名 (以下、U1)

<目的> 日本人英語学習者による前置詞の認定において、前置詞句の文法機能がどれだけ反映されるかを調査する。

<調査形式> 前置詞挿入テスト (付録1参照)

与えられた日本語の意味を表わすように、英文中の空欄に前置詞、もしくは×(何も入らない)を挿入するテスト。空欄は、全部で35箇所あり、その内訳は表1のようになる。なお、制限時間は特に設けなかったが、全員15~20分で記入を終えた。

表1 調査Iの内訳

	on	in	with	to	for	from	at	TOTAL
①	1	3	—	—	—	—	—	4
②	1	—	2	2	1	—	1	7
③	3	6	—	1	—	—	—	10
④	1	—	1	1	—	1	—	4
⑤	—	—	—	—	—	—	—	10
TOTAL	6	9	3	4	1	1	1	35

3.1.2. 調査結果

調査Iで得られた結果（各グループ・各文法機能の平均点）は、以下の表2のようにになる。なお、表1からわかるように、文法機能ごとに問題数が異なるので、得点を同等に比較できるように、被験者の素点を角変換して、それらを各被験者の得点とした。このように変換すると、得点は最低点4.84～最高点85.15 に分布する。従って、表2の数値は、角変換された値である。

表2 調査Iの結果（平均点）

	①	②	③	④	⑤	TOTAL
H1	46.91	26.80	46.06	39.56	43.23	40.51
H3	43.21	36.61	46.74	43.91	43.69	42.83
U1	61.22	58.89	61.93	61.25	63.52	61.36
TOTAL	50.45	40.77	51.58	48.24	50.14	----

これらのデータは、2つの要因（学習者グループ・文法機能）について分散分析され、それぞれの要因について有意差が認められたので、多重検定（Ryan法）が行なわれた。表3は、各文法機能間と学習者のグループ間で、得点に有意差が生じたかどうかを示したものである。なお、表中の>は、その左側にあるものの方が有意に得点が高いことを意味する。

表3 各文法機能・各グループ間の有意差

文法機能	学習者グループ
TOTAL: ①, ③, ④, ⑤>②	TOTAL: U1>H3, H1
H1: ①, ③, ④, ⑤>②	①③④⑤: U1>H3, H1
H3: 有意差なし	②: U1>H3>H1
U1: 有意差なし	

3.1.3. 3つの観点からの分析

先に挙げた3つの概念（意味選択・動詞依存・範疇選択）に基づいて、前置詞句の文法機能を分類すると、以下の3点が問題になる。

(a) 動詞に依存しているかどうか。

前置詞句が (b) 意味選択されているかどうか。

(c) 範疇選択されているかどうか。

ここでは、これら3つの観点について、調査結果を分析する。つまり、(a) 動詞に依存している前置詞句としていないもので得点に有意差が生じたか（① vs. ②③④⑤）、(b) 前置詞句が意味選択されているかどうかで得点に有意差が生じたか（④ vs. ②③⑤）、(c) 前置詞句が範疇選択されているかどうかで得点に有意差が生じたか（③ vs. ②⑤）をそれぞれ検定した。それぞれの平均点と検定の結果は、以下の表4～6のように表わされる。

表4 (a) ①と②③④⑤について（動詞依存）

	①	②～⑤	有意差
H 1	46.91	40.18	s. (p<.05)
H 3	43.21	43.22	ns.
U 1	61.22	61.24	ns.
TOTAL	50.45	48.21	ns.

<グループ間>

①について: U1>H3, H1

②～⑤について: U1>H3, H1

<文法機能間>

H1においてのみ有意。

(①>②③④⑤)

表5 (b) ④と②③⑤について（意味選択）

	④	②③⑤	有意差
H 1	39.56	40.23	ns.
H 3	43.91	43.07	ns.
U 1	61.25	61.08	ns.
TOTAL	48.24	48.12	ns.

<グループ間>

④について: U1>H3, H1

②③⑤について: U1>H3, H1

<文法機能間>

いずれも有意差なし。

表6 (c) ③と②⑤について（範疇選択）

	③	②⑤	有意差
H 1	46.06	36.56	s. (p<.001)
H 3	46.74	40.75	s. (p<.05)
U 1	61.93	61.40	ns.
TOTAL	51.58	46.40	s.

<グループ間>

③について: U1>H3, H1

②⑤について: U1>H3, H1

<文法機能間>

U1では有意差なし。

H1, H3では、③>②⑤

これらの分析結果は、次の表7のようにまとめられる。

表7 3つの観点からの分析結果

	文法機能	学習者グループ
(a)動詞依存 ①-②③④⑤	H1: ①>②③④⑤ H3: 有意差なし U1: 有意差なし	①: U1>H3, H1 ②~⑤: U1>H3, H1
(b)意味選択 ④-②③⑤	H1: 有意差なし H3: 有意差なし U1: 有意差なし	④: U1>H3, H1 ②③⑤: U1>H3, H1
(c)範疇選択 ③-②⑤	H1: ③>②⑤ H3: ③>②⑤ U1: 有意差なし	③: U1>H3, H1 ②⑤: U1>H3, H1

3.2. 調査Ⅱ

3.2.1. 調査の概略

<調査時期> 調査Ⅰと同じ。

<被験者> 調査Ⅰと同じ。

<目的> 文中で義務的（省略不可能）な構成素である前置詞句と随意的（省略可能）な前置詞句に対して、学習者がどのように意識を向けているかを、文法機能の観点から調査する。

<調査形式> 文法性判断テスト（付録2参照）
与えられた文に対して、文法的かどうかを判断するテスト。答えは、○か×の二者択一方式。問題数は、30問。制限時間は、特に設けなかったが、全員10～15分で記入を終えた。

3.2.2. 調査結果⁴

調査Ⅱで得られた結果（各文法機能・各グループ）は、表8のようになる。調査Ⅰと同様に、数値は角変換されたものである。得点は、5.23～84.76 に分布する。

表8 調査Ⅱの結果（平均点）

	①	②	③	④	⑤	TOTAL
H 1	64.01	48.00	35.79	42.33	66.53	51.34
H 3	67.31	45.27	36.22	56.29	65.90	54.20
U 1	70.05	57.86	28.75	64.47	71.61	58.55
TOTAL	67.15	50.38	33.57	54.36	68.01	----

これらのデータは、調査Ⅰと同様に、文法機能と学習者グループについて、分散分析・多重検定された。多重検定の結果は、表9のようにまとめられる。

表9 各文法機能・各グループ間の有意差

文法機能	学習者グループ
TOTAL: ⑤, ①>④>②>③	TOTAL: U 1>H 3>H 1
H 1: ⑤, ①>② (④) > (④) ③	②: U 1>H 3, H 1
H 3: ⑤, ①>④>②>③	④: U 1, H 3>H 1
U 1: ①, ②, ④, ⑤>③	①③⑤: 有意差なし

3.2.3. 3つの観点からの分析

調査Ⅰと同様に、(a)動詞依存・(b)意味選択・(c)範疇選択という3つの観点から結果が分析された。分析結果は、表10~12に示されるようになった。

表10 (a) ①と②③④⑤について（動詞依存）

	①	②~⑤	有意差
H 1	64.09	46.78	s. (p<.001)
H 3	67.31	48.29	s. (p<.001)
U 1	70.05	51.62	s. (p<.001)
TOTAL	67.15	48.89	s.

<グループ間>

いずれも有意差なし。

<文法機能間>

すべてのグループにおいて

①>②~⑤

表11 (b) ④と②③⑤について (意味選択)

	④	②③⑤	有意差
H 1	42.33	47.56	ns.
H 3	57.71	46.86	s. (p<.01)
U 1	64.47	49.43	s. (p<.001)
TOTAL	54.84	47.95	s.

<グループ間>

④について: U 1, H 3 > H 1

②③⑤について: 有意差なし

<文法機能間>

H 1では有意差なし

H 3, U 1では、④>②③⑤

表12 (c) ③と②⑤について (範疇選択)

	③	②⑤	有意差
H 1	35.73	56.24	s. (p<.001)
H 3	36.21	54.33	s. (p<.001)
U 1	28.75	64.59	s. (p<.001)
TOTAL	33.57	58.39	s.

<グループ間>

③について: 有意差なし

②⑤について: U 1, H 3 > H 1

<文法機能間>

すべてのグループにおいて

②⑤>③

これらの分析結果は、以下の表13のようにまとめられる。

表13 3つの観点からの分析結果

	文法機能	学習者グループ
(a) 動詞依存 ①-②③④⑤	H 1 : ①>②③④⑤ H 3 : ①>②③④⑤ U 1 : ①>②③④⑤	①: 有意差なし ②~⑤: 有意差なし
(b) 意味選択 ④-②③⑤	H 1 : 有意差なし H 3 : ④>②③⑤ U 1 : ④>②③⑤	④: U 1, H 3 > H 1 ②③⑤: 有意差なし
(c) 範疇選択 ③-②⑤	H 1 : ②⑤>③ H 3 : ②⑤>③ U 1 : ②⑤>③	③: 有意差なし ②⑤: U 1, H 3 > H 1

4. 考察

4.1. 調査 I についての考察

調査 I の結果を考察する前に確認しておかなければならないことがある。それは、前置詞句補部 (②) を除いて他の文法機能は、少なくとも言語学的には、前置詞の認定と文法機能が直接的に関連していないという点である。文付加部 (①) ・義務的付加部 (③) ・随意的付加部 (④)

の前置詞句は、文全体の意味と後続の名詞句との関係によって、前置詞が認定されると言える。すなわち、少なくとも①③④において、前置詞認定過程そのものに難易度の差がみられると、文法機能という観点で分析することが無意味になってしまう。そこで、表1からわかるように、①③④において出現頻度の高かった on (6箇所) と in (9箇所) について、得点に有意差があるかどうかを検定した。その結果、両者の得点 (on: 47.59 in: 50.30) に有意差は認められず、文法機能で分析することの妥当性は、ある程度 (②に関してと他の前置詞については問題が解決した訳ではない限りにおいて) 認められた。

各文法機能についての分析結果 (表3) は、前置詞句補部 (②) のみ段階的な発達がみられたこと (U1>H3>H1)、H1内でのみ、前置詞句補部の得点が他のものより有意に低かったこと (①, ③, ④, ⑤>②) を示している。これらの結果を解釈すると、前置詞句補部は熟語として扱われるものが多く、英語学習時間に比例して、学習者がそれらに接する機会が増えた、もしくは意識的に記憶した、と考えられる。また、前置詞句補部における前置詞の認定が、他の文法機能における前置詞認定とプロセスが異なるという言語学的仮説も支持されていると言える。

次に、3つの観点 (動詞依存・意味選択・範疇選択) からの分析結果を解釈する。表7に示された結果は、H1内において、動詞に依存していない前置詞句・範疇選択されていない前置詞句の成績が有意に高く、H3内では、範疇選択されていない前置詞句が成績が高かった。U1内においては、いずれも有意差は生じなかった。

意味選択されるかどうかで、有意差が生じなかったが、前置詞挿入という調査形式を考慮に入れると、特に予測に反した結果ではないと考えられる。つまり、意味選択は、ある構成素が義務的なものか随意的なものかを意識するという問題であり、前置詞挿入という形式では、その意識が測定できないということである。

動詞依存について、H1内でのみ有意差が生じたことは、次の2点において興味深い。まず、前置詞句が動詞に依存しているかどうかは、少なくとも言語学的に考えて、前置詞認定過程に直接的な関連があるとは言えない。しかし、H1では、前置詞認定の際に、前置詞句が動詞に依存しているということが、制約として機能していると考えられる。これは、言語学的制約が言語使用に及ぼす心理的制約と解釈できるのではないだろうか。第2に、H1内でのみ有意差が生じ、H3とU1では、生じなかったことが挙げられる。今回の調査結果だけで、結論を出すことは避けなければならないが、動詞依存は、学習初期段階においてのみ機能する心理的制約ではないかという可能性が導き出される。

範疇選択に関しては、「熟語として扱われるものが多く、学習段階が進むにつれて・・・」という先程の解釈がはずれている訳ではないが、注意しなければならない点がある。それは、範疇選択に2つの過程が含まれていることである。つまり、前置詞句補部か名詞句補部かを選択する過程と、前置詞句補部が選択されたときに前置詞を認定する過程である。3.1.2. (表3) で得られた結果 (文法機能に関して、H1: ①③④⑤>②、H3: 有意差なし、学習者グループに関して、②: H3>H1、⑤: 有意差なし) を考慮に入れると、H1では、前置詞認定の過程が制約として働き、H3では前置詞句補部か名詞句補部かの識別 (これは自動詞・他動詞の識別と言いつけられるかもしれない) が制約として機能していると考えられる。

4.2. 調査Ⅱについての考察

各文法機能についての分析結果 (表9) からは、3つのことが導きだされる。第1に、文法機能間の有意差をグループ間の有意差と関連づけてみると、学年が上がるにつれて、前置詞句補部

(②)と随意的付加部(④)への意識が高まっていくことが読み取れる。第2に、グループ間の発達がみられるにもかかわらず、義務的付加部(③)への意識は学習者の学年が上がっても低いままである。これは、義務的付加部の独特の性質によるものであると解釈できる。つまり、文中で義務的な要素であるにもかかわらず、形式(形)が決まっていない(範疇選択されていない)という中途半端な制約が、被験者の一定しない反応を引き起こしたと言える。第3に、H1とH3において、名詞句補部(⑤)の得点が前置詞句補部(②)の得点より有意に高かったことが挙げられる。両者はともに補部に属し(範疇選択されており)、言語学的制約においては違いがないはずである。しかし、学習者は両者に対して、異なった反応を示している。これには、2つの解釈が可能である。1つには、学習者が自動詞・他動詞の識別に意識を向けていない、つまり、補部(直接目的語)が前置詞句として具現化しうることが意識されていない、という解釈ができる。もう1つの解釈として、完全自動詞と不完全自動詞の識別がなされていないことが考えられる。これは、随意的前置詞句である文付加部(①)と随意的付加部(④)の反応が転移したとも考えられ、義務的付加部(③)の得点の低さも考えあわせれば、学習者が「前置詞句は統語的に重要ではない」という誤った仮説をもっているのではないかと考えられる。

次に、3つの観点からの分析結果(表13)について考察する。動詞依存に関して、すべてのグループ内で、動詞に依存していない前置詞句の方が、得点が高かった。意味選択については、H3、U1内で、意味選択されていない前置詞句の方が有意に得点が高かったが、H1では、有意差が生じなかった。そして、範疇選択に関しては、選択されている前置詞句の方が得点が高かった。

動詞依存という言語学的制約は、実際に前置詞句を使用する際に、心理的制約としても機能していることがわかる。意味選択について、中級・上級学習者では制約として機能しているにもかかわらず、初級学習者には機能していないことは注目すべき点である。範疇選択については、言語学的に設定された制約が、実際には正しい反応を活性化していることがわかる。これも、先程と同様に、義務的付加部(③)の曖昧な特質(義務的だが形式が定まっていない)に起因するものであろう。また、言語学的制約が、必ずしも心理的に制約となるわけではないことは、留意すべきであると考えられる。

調査Ⅱは、文中での義務的要素と随意的要素の識別を要求したものであるが、一旦、意味選択された前置詞句は省略できないという統語的性質(図1からわかるように、①④は省略可能で、②③⑤は省略不可)を考えれば、①④と③②⑤の間に境界線ができるはずである。しかし、調査結果では、義務的付加部(③)の得点が低く、しかも、学習段階が進んでも発達がみられない。すなわち、義務的要素であるはずの③の前置詞句を省略可能と判断してしまう傾向がみられた。このように、実際は、①④と③②⑤の間に境界線ができるのではなく、③自体が境界線として、学習者に認識されていると考えることができる。

5. 今後の課題

本小論では、日本人学習者が前置詞句を使用する際に、どのような困難点があるのかを、文法機能という観点から調査してきたが、これは、あくまでも「調査」であり、仮説検証型の実験ではなかった。しかも、2つの調査で扱ったのは、前置詞句使用のほんの一側面であり、さらに研究を続けていかなければならない。また、前節で導き出された解釈は、確定的なものではなく、今後の実験に向けて、仮説として耐えうるものに発展させなければならない。

今回の分析では、扱うことができなかったが、日本語との関連については、今後の課題となる

だろう。特に、調査Ⅰの前置詞挿入に関して、被験者が日本人学習者であることを考えれば、日本語の助詞と英語の前置詞との関係が、重要になってくることが予測できる。言語学的理論研究とあわせて今後の課題としたい。

註)

1. 本稿は、第23回中国地区英語教育学会での口頭発表に基づいて、修正加筆したものである。
2. 文法機能に関する用語は、研究者によって、さまざまであり、用語統一の困難さは、Hudson (1990), Matthews (1981), Radford (1988) にも述べられている。本小論では、原則として Quirk et al (1985) の用語に従っている。
3. 他動詞の補部は、自動詞・他動詞の識別という点から、前置詞句補部と同程度に重要であると考えられるので、分類のひとつに加えた。なお、他動詞の補部には、that節・不定詞・動名詞などさまざまな形が考えられるが、調査では、名詞句だけを取り扱った。
4. 付録2からわかるように、調査Ⅱには、英文に関する文法性判断と日本文に関する文法性判断が含まれている。日本語の刺激文は、英語の刺激文を直訳したものであり、英文に対する判断と組み合わせ、日本語との関連を調査しようとしたものである。しかし、本小論ではまず、英文に関する結果のみを報告し、日本語と組み合わせた分析は、改めて別の機会に論じることとする。

参考文献

- Chomsky, N. 1986. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. Praeger.
- Cook, V. J. 1988. *Chomsky's Universal Grammar: An Introduction*. Blackwell.
- Greenbaum, S. 1969. *Studies in English Adverbial Usage*. Longman. (郡司利男・鈴木英一訳 『英語副詞の用法』 研究社)
- Haegeman, L. 1991. *Introduction to Government and Binding Theory*. Blackwell.
- Herbst, T. 1984. Adjective complementation: A valency approach to making EFL dictionaries. *Applied Linguistics* 5: 1-11.
- Hopper, P. and Thompson, S. 1980. Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56: 251-299.
- Hornby, A. S. 1975. *Guide to Pattern and Usage in English*. Oxford University Press.
- Hudson, R. 1990. *English Word Grammar*. Blackwell.
- Matthews, H. P. 1981. *Syntax*. Cambridge.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., and Svartvik, J. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Radford, A. 1988. *Transformational Grammar*. Cambridge.
- Tsunoda, T. 1985. Remarks on transitivity. *Journal of Linguistics* 21: 385-396.
- Wilkins, W. 1988. *Syntax and Semantics 21 Thematic Relations*. Academic Press.
- 井上和子(編). 1989. 『日本語文法小事典』 大修館書店.
- . 1989. 「主語の意味役割と格配列」 久野・柴谷(編) 1989. 『日本語学の新展開』 くろしお出版.

- 清川英男. 1990. 『英語教育研究 データに基づく研究の進め方』 大修館書店
- 児玉徳美. 1987. 『依存文法の研究』 研究社.
- ――. 1991. 『言語のしくみ』 大修館書店.
- 松原健二. 1983. 「英語前置詞の方向素性とその習得困難性」 『中部地区英語教育学会研究紀要』 第13号 211-218.
- 村田勇三郎. 1984. 『学校英文法の基礎 第7巻 文I』 研究社.
- 岡田伸夫. 1985. 『副詞と挿入文』 大修館書店.
- 柴谷方良. 1978. 『日本語の分析-生成文法の方法』 大修館書店.
- 寺村秀夫. 1982. 『日本語のシンタクスと意味I』 くろしお出版.
- 角田太作. 1991. 『世界の言語と日本語』 くろしお出版.
- 内田智子. 1982. 「日本人英語学習者における自動詞・他動詞の混同」 『中部地区英語教育学会研究紀要』 第12号 51-59.
- 山岡俊比古. 1990. 「英語前置詞習得のプロトタイプの説明-日本人学習者による on の習得の場合」 『教育学研究紀要』 第35巻 第二部 193-198.
- ――. 1992. 「日本人英語学習者による前置詞習得の分析-プロトタイプの対照分析の可能性」 第18回全国英語教育学会福岡大会 口頭発表資料.
- 山内光哉. 1987. 『心理・教育のための統計法』 サイエンス社.

付録1

調査1

*** 指示 ***

- ・以下の英文が日本語で書かれている意味を表すように、下線部に適語を入れて下さい。
- ・下線部には、「前置詞が入る」場合と「何も入らない」場合があります。

下線部に「前置詞が入る」と思う場合には、どんな前置詞が入るのかを考えて、その前置詞を実際に下線部に記入して下さい。前置詞というのは、例えば、to, with, at, on, in, from などです。他にも前置詞はありますから、自分で考えて適切だと思えるものを入れて下さい。

下線部には「何も入らない」と思う場合は、下線部にX印を記入して下さい。

*** 注意点 ***

- ・下線部を空欄のままにしないで下さい。わからない場合でも、勘(かん)で構いませんから、必ず記入して下さい。
- ・日本語の文の後ろに書かれている語(1番なら、lie)は、日本語の動詞の部分に相当します。ただし、すべて原形で書かれています。

- あなたのスカーフ(your scarf)が床(floor)に落ちてますよ。(lie)
Your scarf is lying _____ the floor.
- 彼は読んでいた本(his book)から目を上げました。(look)
He looked _____ his book.
- 政府(government)は3月(March)に、家のない人々(homeless)に毛布(blankets)を支給しました。(supply)
The government supplied _____ the homeless _____ blankets _____
March.

4. 私はこの前に書いた本(my last book)で、あなたの考え(your theories)に言及しました。(refer)
I referred _____ your theories _____ my last book.
5. 彼は午前中(morning)に、コート(his coat)をフック(hook)に掛けました。(hang)
He hung _____ his coat _____ the hook _____ the morning.
6. 彼女は母親(her mother)の頬(cheek)にキスをしました。(kiss)
She kissed _____ her mother _____ the cheek.
7. 彼女は財布(purse)を持ったまま消えてしまいました。(disappear)
She disappeared _____ the purse.
8. メアリー(Mary)は駅のホーム(platform)で、離婚(divorce)のことでジョン(John)を非難しました。(blame)
Mary blamed _____ John _____ the divorce _____ the platform.
9. 学校(school)は4月(April)から始まります。(start)
School starts _____ April.
10. 彼は本(book)を棚(shelf)に置きました。(put)
He put _____ the book _____ the shelf.
11. ジョン(John)は壁(wall)に掛かっている絵(picture)に目をやりました。(look)
John looked _____ the picture _____ the wall.
12. その島(island)に住んでいる人々(people)は本土(mainland)から持ち込まれる(were brought)物資(supplies)に頼っていました。(rely)
The people _____ the island relied _____ the supplies that were brought _____ the mainland.
13. 私はお金のほとんど(most of my money)を銀行(bank)に預けています。(keep)
I keep _____ most of my money _____ the bank.
14. ドロシー(Dorothy)は部屋(room)に残っています。(remain)
Dorothy is remaining _____ the room.
15. 彼は息子(his son)に特別な技能(special skills)を身に付けさせました。(equip)
He equipped _____ his son _____ special skills.
16. ジョン(John)は私達を町の中心部(the heart of the city)に案内してくれました。(lead)
John led _____ us _____ the heart of the city.
17. 彼女の父親は(her father)、渋々(reluctantly)結婚(marriage)を承諾しました。(consent)
Her father reluctantly consented _____ the marriage.
18. 私達は彼が健康(good health)であることがわかりました。(find)
We found _____ him _____ good health.
19. 彼女の妹(her sister)はコーヒー(coffee)にたくさんの砂糖(a lot of sugar)を入れます。(put)
Her sister puts _____ a lot of sugar _____ coffee.
20. 彼らは14世紀(the fourteenth century)に南米(South America)に移住しました。(emigrate)
They emigrated _____ South America _____ the fourteenth century.

付録2

調査2

*** 指示 ***

・以下の文が、文法的に正しいか(文として成立するか)どうかを判断して下さい。

‡ 問題文が、文法的に正しい(文として成立する)と感じる場合は、[]に○を記入し、文法的に誤っている(文として成立しない)と感じる場合は、[]にXを記入して下さい。

*** 注意点 ***

※答える際には、前後の文脈・状況などはないと考えて、それぞれ単独の文として判断するようにして下さい。また、ひとつの問題にあまり時間をかけすぎないで、とにかく、最後までやって下さい。

- ・ [] の中を空欄のままにしないで下さい。正解・不正解があるわけではないので、あなたが感じるままを記入して下さい。
- ・ 英文中で使われている単語は、調査1のものと同じですが、もし、意味がわからなければ、右側の日本語訳を参考にして下さい。

1. [] Your scarf is lying on the floor.	scarf: スカーフ floor: 床
2. [] Your scarf is lying.	
3. [] He looked up from his book.	
4. [] He looked up.	
5. [] The government supplied the homeless with blankets in March.	government: 政府 homeless: 家のない人々 blankets: 毛布
6. [] The government supplied the homeless with blankets.	
7. [] The government supplied the homeless.	
8. [] The government supplied.	
9. [] I referred to your theories in my last book.	theories: 考え
10. [] I referred to your theories.	
11. [] I referred.	
12. [] He hung his coat on the hook in the morning.	coat: コート hook: フック
13. [] He hung his coat on the hook.	
14. [] He hung his coat.	
15. [] She kissed her mother on the cheek.	cheek: 頬
16. [] She kissed her mother.	
17. [] She disappeared with the purse.	purse: 財布
18. [] She disappeared.	
19. [] Mary blamed John for the divorce on the platform.	divorce: 離婚 platform: 駅のホーム
20. [] Mary blamed John for the divorce.	
21. [] Mary blamed John.	
22. [] Mary blamed.	
23. [] School starts in April.	
24. [] School starts.	
25. [] He put the book on the shelf.	shelf: 棚
26. [] He put the book.	
27. [] He put.	
28. [] John looked at the picture on the wall.	
29. [] John looked.	
30. [] The people on the island relied on the supplies that were brought from the mainland.	supplies: 物資 mainland: 本土
31. [] The people on the island relied.	
32. [] I keep most of my money in the bank.	bank: 銀行
33. [] I keep most of my money.	
34. [] I keep.	
35. [] Dorothy is remaining in the room.	
36. [] Dorothy is remaining.	
37. [] He equipped his son with special skills.	special skills: 特別な技能
38. [] He equipped his son.	
39. [] He equipped.	

40. []] John led us to the heart of the city.	heart:中心部
41. []] John led us.	
42. []] Her father reluctantly consented to the marriage.	reluctantly:渋々
43. []] Her father reluctantly consented.	marriage:結婚
44. []] Her sister puts a lot of sugar in coffee.	sugar:砂糖
45. []] Her sister puts a lot of sugar.	
46. []] Her sister puts.	
47. []] They emigrated to South America in the fourteenth century.	century:世紀
48. []] They emigrated to South America.	
49. []] They emigrated.	

*** 以上で英文についての問題は終わりです。すべての [] に、○か×が記入されていますか。もう一度、確認して下さい。確認が終わったら、次の日本語の文について、同じように答えて下さい。ただし、日本語文について記入を始めたら、英文の方の解答を変更しないで下さい。

- 1. [] あなたのスカーフが床に落ちていますよ。
- 2. [] あなたのスカーフが落ちていますよ。
- 3. [] 彼は、読んでいた本から目を上げました。
- 4. [] 彼は、目を上げました。
- 5. [] 政府は3月に、家のない人々に毛布を支給しました。
- 6. [] 政府は、家のない人々に毛布を支給しました。
- 7. [] 政府は、家のない人々に支給しました。
- 8. [] 政府は、支給しました。
- 9. [] 私はこの前に書いた本で、あなたの考えに言及しました。
- 10. [] 私は、あなたの考えに言及しました。
- 11. [] 私は、言及しました。
- 12. [] 彼は午前中に、コートをフックに掛けました。
- 13. [] 彼は、コートをフックに掛けました。
- 14. [] 彼は、コートを掛けました。
- 15. [] 彼女は、母親の頬にキスしました。
- 16. [] 彼女は、母親にキスしました。
- 17. [] 彼女は、財布を持ったまま、消えてしまいました。
- 18. [] 彼女は、消えてしまいました。
- 19. [] メアリーは駅のホームで、離婚のことでジョンを非難しました。
- 20. [] メアリーは離婚のことで、ジョンを非難しました。
- 21. [] メアリーは、ジョンを非難しました。
- 22. [] メアリーは、非難しました。
- 23. [] 学校は、4月に始まります。
- 24. [] 学校は、始まります。
- 25. [] 彼は、本を棚に置きました。
- 26. [] 彼は、本を置きました。
- 27. [] 彼は、置きました。
- 28. [] ジョンは、壁に掛かっている絵に目をやりました。
- 29. [] ジョンは、目をやりました。
- 30. [] その島に住んでいる人々は、本土から持ち込まれる物資に頼っていました。
- 31. [] その島に住んでいる人々は、頼っていました。
- 32. [] 私は、お金のほとんどを銀行に預けています。
- 33. [] 私は、お金のほとんどを預けています。
- 34. [] 私は、預けています。
- 35. [] ドロシーは、部屋に残っています。
- 36. [] ドロシーは、残っています。
- 37. [] 彼は、息子に特別な技能を身に付けさせました。
- 38. [] 彼は、息子に身に付けさせました。
- 39. [] 彼は、身に付けさせました。

- 40. [] ジョンは、私達を町の中心部に案内してくれました。
- 41. [] ジョンは、私達を案内してくれました。
- 42. [] 彼女の父親は、渋々、結婚を承諾しました。
- 43. [] 彼女の父親は、渋々、承諾しました。
- 44. [] 彼女の妹は、コーヒーにたくさんの砂糖を入れます。
- 45. [] 彼女の妹は、たくさんの砂糖を入れます。
- 46. [] 彼女の妹は、入れます。
- 47. [] 彼らは、14世紀に南米に移住しました。
- 48. [] 彼らは、南米に移住しました。
- 49. [] 彼らは、移住しました。